

厚生労働省も統合医療情報発信サイトの中で「情報の見極め方」として「10か条」を紹介しています。

氾濫する情報:メディア・リテラシーの重要性

パソコンやスマホ・タブレットなどの情報通信機器の進化、普及により情報へのアクセスが容易になった一方で、大量の情報(正しい情報から間違った情報まで)が氾濫し、「どのように選別するか」という問題が発生してきているそうです。そんな現代は、「情報の信頼性が確かなものか」「事実と大きく異なる情報操作が行われていないか」など、「どのように選別するか」という問題が発生してきているそうです。そんな現代は、「情報の信頼性が確かなものか」「事実と大きく異なる情報操作が行われていないか」など、自分自身で情報を取捨(正しい内容、信頼できる内容)を選択する能力(メディア・リテラシー)が必要な時代だと言われています。

デマへの警鐘

新型コロナウイルスが蔓延する現在、WHO(世界保健機構)は、「新型コロナウイルス感染症に関連するニュースが連日報道されている不安定な状況下では、必ず根も葉もない情報やデマが大量に拡散される」と公表し、「パンデミック」ならぬ「インフォデミック」と指摘し、警鐘を鳴らしました。「パンデミック(pandemic)」とは、「世界的流行」のこと。「インフォデミック(infodemic)」とは、情報の伝染という意味の「information(情報)+epidemic(病気の流行)」を短縮した言葉だそうです。

誤情報のリツイートに関する調査

米マサチューセッツ工科大学のグループは、有名な科学雑誌サイエンスに「誤情報は、正しい情報より広がりやすい」という調査結果を発表しました(2018年)。その中で、偽ニュース(フェイクニュース)がリツイート(再投稿)される可能性は、正しいニュースに比べて70%高く、正しいニュースが1500人に届くには、フェイクニュースの約6倍の時間がかかると書かれています。

実際、北里大学の伊藤かおる先生らのグループは、「飼い犬の咬傷行動に関するインターネット情報の信頼性」という論文(2022年)の中で、「飼い主が、質(信頼性・正確性)の低い情報に曝(さら)されている現状が示された」と報告しています。

検索時の注意点として、上記の「フェイクニュース」の他に「フィルターバブル」や「エコーチェンバー現象」なども知っておくべきです。

● フィルターバブル

検索サイトは、検索エンジンを使うユーザーに対して、ユーザーが満足するような有益で関連性の高い検索結果を提供しようというスタンス(ユーザーファースト)なので、過去の検索履歴などからそのユーザーが喜ぶ情報を選んで教えてくれるようです。つまり、コンピューターが情報を自動で取捨選択するため、ユーザーが知らないうちに、ユーザーの意思とは無関係に限られた情報(真偽に関わらず)しか触れることができなくなっている可能性が高いようです。

● エコーチェンバー現象

閉鎖的な空間(同じ意見しか返ってこないような空間、フィルターバブル)内でのコミュニケーションを繰り返すことによって、特定の情報・アイデア・信念が増幅または強化されてしまう状況の比喻。